

土壌医 藤巻久志

ラッキョウ



| 栽培計画 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 普通栽培 | | | | | | 🌱 | | 🌱 | | | | |
| 2年 据え置き 栽培 | | | | | | 🌱 | | 🌱 | | | | |

🌱 植えつけ 🍷 収穫

ラッキョウ (ヒガンバナ科ネギ属)

ラッキョウはユリ科やネギ科に分類されてきましたが、DNAが決める新分類ではヒガンバナ科になりました。ヒガンバナ科野菜にはタマネギ、ニラ、ニンニク、ワケギなどもあります。

日本ではラッキョウの若取りが「エシャロット」や「エシヤレット」の名で売られていました。本来の「エシャロット」はフランス料理やイタリア料理に欠かせない小球のタマネギです。混同されやすいので流通関係では、ラッキョウの若取りを「エシヤレット」、小球のタマネギを「ベルギー・エシャロット」と呼ぶようになりました。

ラッキョウは酢漬けや塩漬けなどの漬物にするのが一般的ですが、「エシヤレット」は主にそのまま生食されています。新鮮な「エシヤレット」にかつお節をま



ぶし、しょうゆを掛けて食べると、お酒やご飯が進みます。みそを付けて食べても美味です。

ラッキョウは、ニンニクやワケギと同じように種球から育てます。一つの種球が10個ぐらいに分球します。

ラッキョウは、日当たりと風通しの良いプランタなら、プランターでも簡単に栽培できます。

深さ15cm以上のプランターを用意し、市販の培養土を入れます。8月下旬〜9月上旬に株間10cm、深さ5cmに種球を立てて植え付け、たっぷり水やりします。その後は土が乾いたら水やりをします。追肥は球が太り始める2月ごろから、1000倍の液肥を1週間置きに施します。球を白く柔らかくするために数回土寄せをします。

11月ごろに紫色のかわいい花を咲かせます。そのままにしても大きな影響はありませんが、球をより大きくするために摘み取った方が良いでしょう。「エシヤレット」としては3月下旬から収穫できます。漬物用のラッキョウとしては6月下旬〜7月上旬に葉が枯れてきたら、株ごと収穫し、葉を切り落とします。

ラッキョウにはネギやニンニクなどと同じように、硫化アリルが多く含まれています。硫化アリルには体内の疲労物質を分解する効果があり、毎日少しずつ食べるだけで、生活習慣病の予防や疲労回復に効果が期待できます。

JAグリーン
津店が教える!
ラッキョウ
栽培のポイント!



JAグリーン津店 城チーフ

上記のように水はたっぷりを与えますが、プランターで栽培する場合は水はけの良い土を選びましょう。水はけが良くないと球根が腐ってしまうので注意が必要です。

〈2年据え置き栽培〉

植えてから2年後に収穫する栽培方法です。この栽培では1つの種球から小粒のラッキョウを多く収穫することができ、小粒のラッキョウは数が多いので、茎や芽の切り取りなどの下ごしらえが少々面倒ですが、食べやすく繊維も多いので特別な味わいを楽しめます。

〈病害虫とオススメ薬剤〉

アザミウマ：食害だけでなく様々な病気のウィルスを媒介してしまつので、発見したら早期に駆除しましょう。



〈豆知識〉

ラッキョウにはネギやニンニクなどと同じように、硫化アリルが多く含まれています。硫化アリルには体内の疲労物質を分解する効果があり、毎日少しずつ食べるだけで、生活習慣病の予防や疲労回復に効果が期待できます。

タマネギ

あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆



| 栽培計画 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 春まき栽培 (寒冷地) | | | | ① | ② | | ③ | | | | | |
| 普通栽培 | | | | | | ③ | | | ② | ① | | |

① 種まき ② 植えつけ ③ 収穫



タマネギのまきどきと上手な苗作り

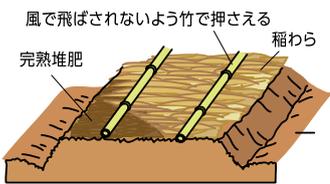
タマネギはあまり早くまき過ぎると冬に入る前に大きく育ち過ぎ、低温に感応してとう立ちする場合があります。失敗しがちです。適正なまきどきは早生種9月上旬、中生種9月15日前後、晩生種9月20日ごろです。タマネギは土壌の酸性に弱い(最適pHは6.3~7.8)ので、苗床の予定地は早めに石灰を施し、20cmぐらいの深さによく耕しておきます。

苗床は幅80~100cm、高さ15~20cm(低温地では幅を狭く、高さを高くする)とし、あらかじめ化成肥料を全面にまき、深さ15cmぐらいに耕し込んでおきます。

種まきは床面をきれいにし、3.3平方m当たり40ml内外の種を均一にばらまきます。その上に草木灰を種が見えなくなる程度に掛け、さらにそれが見えなくなる程度にふるいで土を均一に掛け、板切れなどで軽く押し付け、鎮圧します。

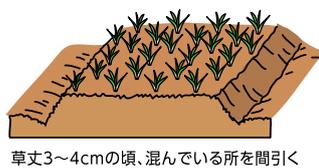


その後細かく砕いた完熟堆肥、またはもみ殻で土が見えなくなるくらいに覆います。そしてたっぷり灌水(かんすい)し、稲わらで全面を覆い、強い降雨や、強日光による乾燥を防ぎます。



通常6~7日で発芽しますから、全体に発芽し1~2cmに伸びたら、被覆していた稲わらは取り除きます。乾いていたら全面にたっぷりジョウロで灌水し、そろった発芽を促します。

草丈が3~4cmに伸びた頃、密に生えたら間引き、1.5cmぐらいの間隔にします。間引きの後、少量の化成肥料を追肥し、ふるいで土を掛けて土入れします。



この頃は秋雨が降り続くことが多く、葉の一部がぼんやりと黄化するべと病が発生しやすいです。この苗床で発生を許すと春先になって本畑で多発しやすいので、早いうちに応答薬剤を、展着剤を加えて散布し、完全に防除しておきます。



11月上旬中旬になり苗の大きさが草丈20cm内外、太さが5~6mmぐらいになったら畑に定植します。苗取りは、床が乾いていたら十分灌水し、根をできるだけ切らないよう、大きい株からできるだけだけそろえて引き抜きます。こうすれば本畑での早い活着は請け合いです。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

農業PR隊長カツラギ通信は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信

みてね!



カツラギ PHOTO GALLERY

